

本年度業界モデル事業参加企業と発表者

プラスチック容器包装業界

- TOPPAN株式会社
- プラスチック容器包装
リサイクル推進協議会
- PETボトル協議会
- ZACROS株式会社
- 大日本印刷株式会社
- 東洋製罐株式会社

TOPPAN株式会社 生活・産業事業本部
SX推進センター SX事業開発本部

高澤 宇史



2026年3月5日
脱炭素経営フォーラムご報告資料

環境省「製品・サービスのカーボンフットプリントに係るモデル事業」 「プラスチック製の容器包装のCFP算定ルール」取り組み紹介

ZACROS株式会社
大日本印刷株式会社
東洋製罐株式会社
TOPPAN株式会社
プラスチック容器包装リサイクル推進協議会
PETボトル協議会

参加企業・団体

ZACROS、大日本印刷、東洋製罐、TOPPANの4社と、プラ推進協、PETボトル協の2団体とで参加



DNP



TOPPAN

プラスチック容器包装
リサイクル推進協議会

PETボトル協議会

役割	氏名	会社名
リーダー	高澤 宇史	TOPPAN 株式会社
サブリーダー	磯崎 峻	大日本印刷株式会社
サブリーダー	山田 久	東洋製罐株式会社
連携責任者	村田 知栄子	ZACROS 株式会社
執筆責任者	原田 範夫	大日本印刷株式会社
執筆担当	稲毛 純子	ZACROS 株式会社
執筆担当	渋谷 真記子	東洋製罐株式会社
調査担当	福武 修太	TOPPAN 株式会社
調査担当	藤本 哲也	東洋製罐株式会社
広報担当	藤井 崇	TOPPAN 株式会社
広報担当	柴田 あゆみ	大日本印刷株式会社
連携担当	堀地 綾	TOPPAN 株式会社
テクニカルアドバイザー	小松 郁夫	PET ボトル協議会
スーパーバイザー	野中 秀広	プラスチック容器包装リサイクル推進協議会
スーパーバイザー	久保 直紀	プラスチック容器包装リサイクル推進協議会

参加の背景

顧客からGHGの「見える化」要請が増加する中、算定できる企業が限られ、算定手法も企業ごとに異なるという現状を踏まえ、まずはすべての業界内企業が参照・活用できる算定ルール等の策定が急務と考え参画に至った

背景・現状の課題

顧客からのGHG「見える化」要請の高まりと算定の壁



高い専門性のハードル

判断が難しい項目が多く、
専門人材の不足により算定
できる企業が限定的



品質・ルールの不統一

各社独自のルールで算定し
ていて算定品質にばらつき
がある

あるべき姿(ビジョン)

- 業界内全企業が同一ルールでGHG排出量を正しく算定
- 算定結果を共通指標とし、パッケージ業界全体で脱炭素を推進
- 各社の環境配慮の取り組みが適正に評価・比較される社会の実現

モデル事業参画までの活動経緯

- 2024.05 個社間の課題共有・検討会キックオフ(4社)



- 2024.06 ありたい姿の議論・算定ルールの方向性確認

- 2024.10 具体的な記載項目の検討・章立ての策定

- 2025.03 「総則」文案の完成(コンセプトの確立)

- 2025.04 業界団体への相談・環境省モデル事業への申請準備

プラスチック容器包装
リサイクル推進協議会 PETボトル協議会

- 2025.06 環境省 令和7年度モデル事業への採択

業界リーディング企業群によるCFP算定・表示ルールの共通化支援対象に決定。

ルール策定の流れ

モデル事業参画前の議論も踏まえ、約8カ月を掛けて文書を作成

2025年4月 - 6月

1 事前準備・方向性定義

- ✓ 検討体制の構築: 座組設計と各社の役割分担
- ✓ 製品選定: 対象となる製品・サービス群の決定
- ✓ 方向性すりあわせ: 検討ゴールのイメージ共有

2025年7月 - 2026年2月

2 ルールの具体化

- 2025年 7月1日 モデル事業 概要説明会
- 2025年 10月2日 業界内意見募集

- ✓ 検討会実施: 月次ベースの実務者検討会(基本は対面開催)
- ✓ 算定ルールの執筆: 規定項目、優先順位、算定ロジックの具体化
- ✓ 意見募集実施: プラ推進協の会員を対象に意見募集を実施

2025年11月 - 2026年1月

3 実証・ロードマップ策定

38件の意見
および問合せ

- ✓ 解説書の執筆: 算定ルールで分かりにくい部分を中心に解説を執筆
- ✓ 策定ルールの実証: 参画企業4社での実証と、実証結果に基づくルールの修正
- ✓ ロードマップ策定: 業界内普及に向けた中期的計画

2026年 1月 - 3月

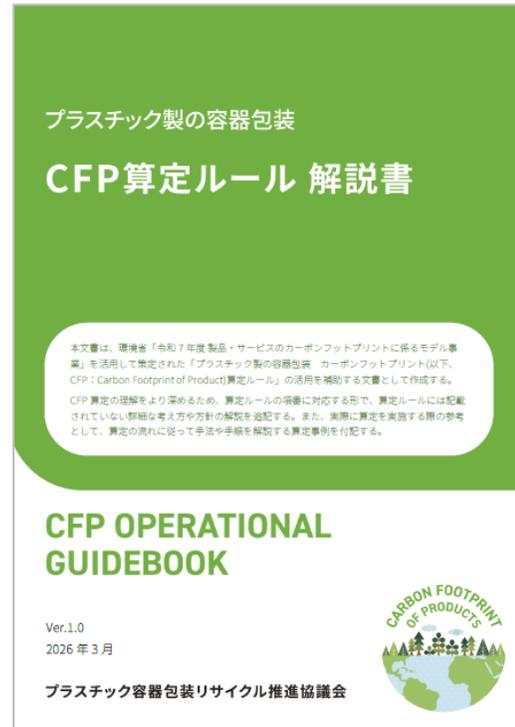
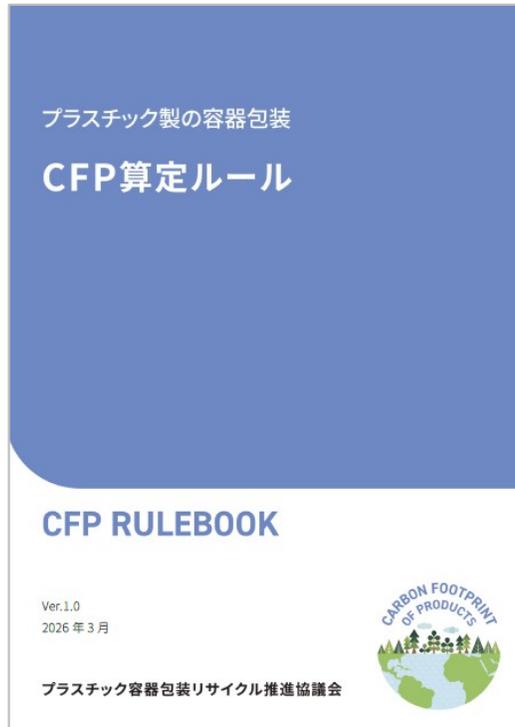
4 最終化・公開準備

- 2026年 2月12日 会員団体・企業向け説明会
- 2026年 3月2日 業界ルール公開

- ✓ 公開準備: 報告会の開催準備と最終成果物のとりまとめ
- ✓ ルールの発行: プラ推進協HPでの公式公開

策定した文書の概要

さまざまな製品に使われるプラスチック製の容器包装のCFP算定ルール



◎ 対象製品・範囲

- ・ プラスチック製の容器包装全般

◎ 文書の構成

- ・ CFP算定ルール
- ・ CFP算定ルール 解説書

◎ 目次

- | | |
|------------|-----------------|
| I はじめに | 6 算定にあたっての留意事項 |
| II 改訂履歴 | 7 その他個別事項の取り扱い |
| III 算定ルール | 8 検証 |
| 1 総則 | 9 算定報告書と情報提供シート |
| 2 用語および定義 | 10 算定結果の解釈 |
| 3 CFP算定の概要 | 11 継続的な取り組み |
| 4 算定対象 | IV 附属書 |
| 5 データ収集方針 | |

策定した文書のポイント

実用性を高めるため、解説書や事例集などの関連資料を整備

ポイント①

解説を別冊として用意

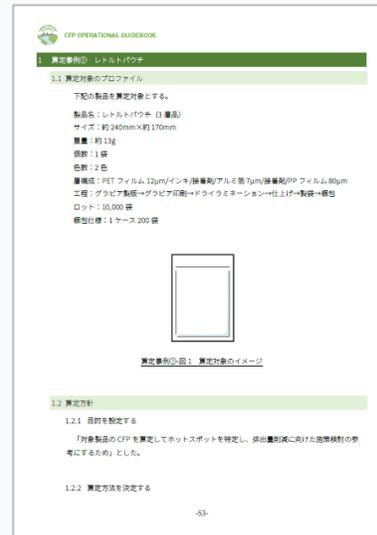
- ✓ 算定ルールを活用を補助するため、詳細な考え方や方法論を記載した解説書を作成
- ✓ 算定ルールの各項番に対応した詳細な解説を掲載



ポイント②

算定事例を記載

- ✓ 解説書には具体的な商品をもとにした算定事例を記載
- ✓ はじめてCFP算定に取り組む方が、詳細な手順を確認しながら算定が可能



ポイント③

情報提供のフォーマット

- ✓ CFP算定ルールには算定結果をCFP利活用者に報告する際のフォーマットを附属
- ✓ CFP利活用者が算定結果を理解するために必要な記載項目を網羅することが可能



今後のロードマップ

「適切で、効率的な」CFP算定方法の普及を図り、業界全体の脱炭素推進に繋げる

2025年度

フェーズ 1: 基盤整備

ゴール

ルールの周知と公開

- ✓ 算定ルールおよび解説書がプラスチック製の容器包装業界に属する企業全体に公開され、周知されている

算定ルール

- ✓ 算定ルールおよび解説書の文書化

その他

- ✓ 業界向けルール報告会の開催

2026-27年度

フェーズ 2: 活用拡大

ゴール

実践企業の増加

- ✓ 算定ルールおよび解説書がプラスチック製の容器包装業界に属する企業全体で活用され、CFPに取り組む企業が増えている

算定ルール

- ✓ 算定ルールおよび解説書の更新

その他

- ✓ ルール策定メンバーでの定期的な勉強会/検討会の実施
- ✓ 最終製品メーカーとの意見交換の実施

2028-30年度

フェーズ 3: 価値創出

ゴール

サプライチェーン全体の脱炭素推進

- ✓ 業界のすべての企業が算定ルールに則り、効率的、且つ正しくCFPを算定できている
- ✓ 顧客から算定結果の信頼が得られ、各社の環境配慮施策が適切に評価されている
- ✓ 見える化された結果を元に、SC全体での脱炭素の取り組みが活発に推進されている
- ✓ プラ容器包装の算定結果を用いて、最終製品のCFP算定・開示が適切に行われている

算定ルール

- ✓ 算定ルールおよび解説書の更新

その他

- ✓ ルール策定メンバーでの定期的な勉強会/検討会の実施